



臼井城と5砦巡り探索

(令和4年4月)



手繰坂を上った先右奥の浅間山頂の浅間神社'”中の浅間様”



稲川政右衛門 「豊岡誌」より

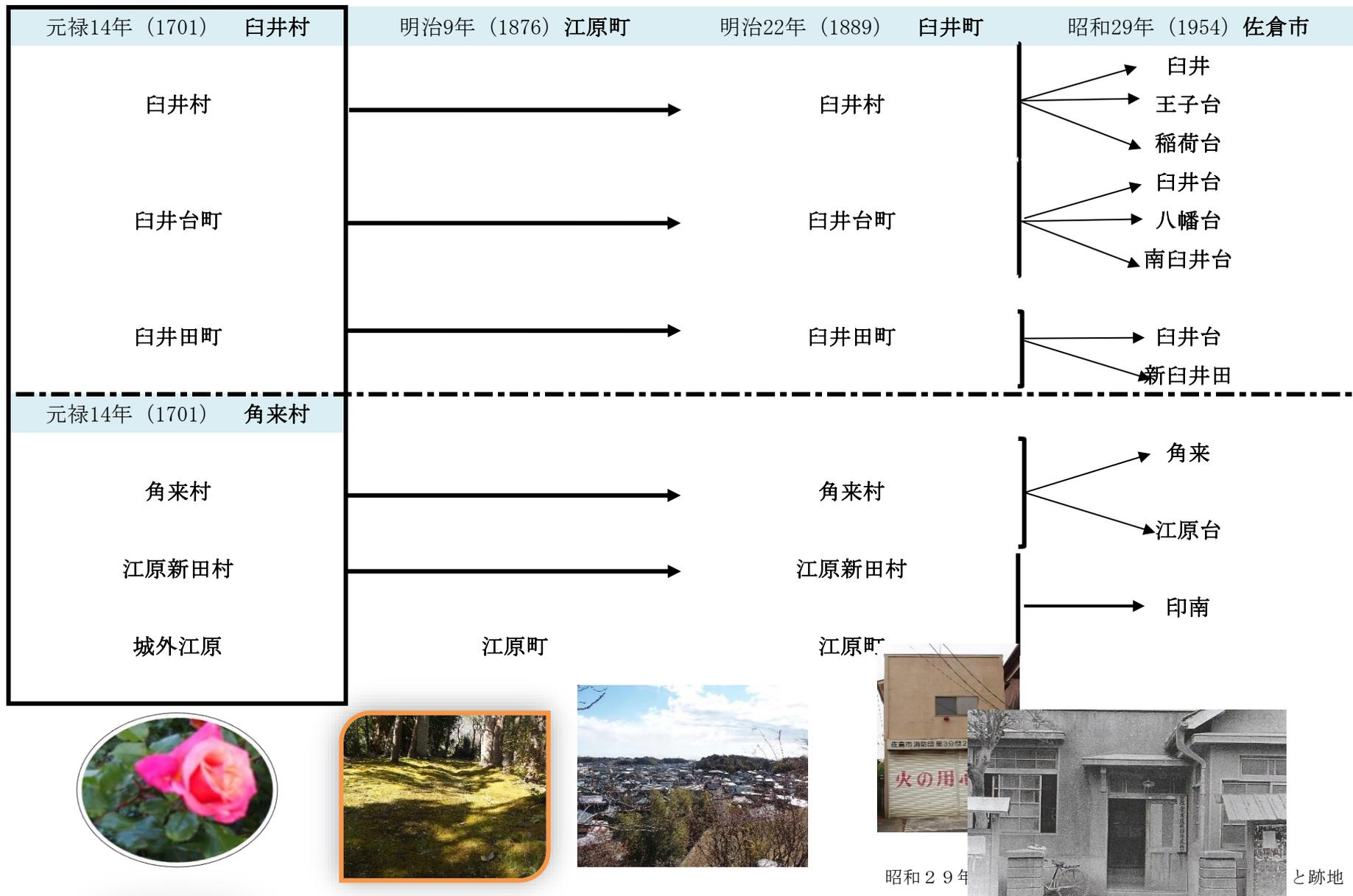


「新編高崎市史 通史編4」より



佐倉路地裏探検隊

1. 白井地区の村(旧白井町)と大字の変遷 (注「多輪免喜第3号 白井の地名」を参考)



2. 臼井； (参照 「角川日本地名大辞典 12 千葉県」)

印旛沼南岸の低平地及び丘陵地上に位置する

1) 中世 臼井郷；

- ① 鎌倉期から見える郷名。天福2年(1234)正月12日の太神宮司序宣に「下総国臼井郷住人南無妙房」が初見。熊野詣でに來た臼井郷住人南無妙房が、伊勢内宮内小朝熊神社の神鏡を盗み、同国大古曾(三重県津市)お地頭に預けられたと記されている
- ② 元弘元年(1331)12月25日の毛利家文章で長井頼秀室尼症ねん状(病状を記した書上か?)では、臼井の堀の内の名田、在家を長井貞頼に譲っており、鎌倉期には臼井は同氏相伝の所領であった。
- ③ 鎌倉末期から室町期には、臼井郷を中心とした臼井荘の名が見え、その荘域は現在の八千代市、八千代市、船にまたがる。
- ④ 小田原北条氏の家臣遠山直景の大永2年(1522)5月19日付伝馬手形写しにも臼井の名が見える。臼井は江戸・浅草・葛西新宿と並ぶ交通の要地であったと思われる
- ⑤ 臼井郷の中の臼井城は、千葉氏の一族臼井常康(千葉氏の初代当主の千葉常重で、常重の兄弟は海上常衡(うなかみつねひら)、匝瑳常廣がおり4兄弟である)にはじまり、臼井氏が鎌倉期に臼井城を築き、永禄4年(1561)まで臼井城を治め、その後原氏が居城した。戦国期は争乱が続いた
★文明10年末(1478)1月山内上杉家・扇谷上杉家と古河公方足利成氏が和解したが、長尾景春と組んだ千葉孝胤(のりたね)は和睦に反対。同年12月太田道灌の支援を得て孝胤追討に立上り、12月10日には境根原合戦(さかいねはらかっせん。柏市酒井根根。太田道灌・千葉自胤(よりたね)に対する千葉孝胤との戦)
千葉孝胤はこの戦に破れ、臼井城に籠城するも文明11年(1479)落城しました
★文明11年(1479)の太田図書と千葉自胤(これたね)等による臼井城攻めで臼井城は落城しましたが、その後始末として千葉自胤は城代をおいて本人は武蔵の国に帰ります。本佐倉城に千葉孝胤と臼井持胤・俊胤等により臼井城は取り返された
- ⑥ 永禄5年(1561)上総里見家の力を背景に侵攻してきた正木信茂により臼井城と生実城を奪われたが、永禄8年(1564)に里見氏が第2次国府台合戦に北条氏に大敗すると、千葉胤富らの助力により2城を奪還した
- ⑦ 永禄8年(1565)2月18日の酒井胤治書状案によると、里見方の胤治が守る土気城を攻めた北条方に「臼井衆」として原弥太郎、渡辺孫八郎、大畑半九郎等の名が見える

- ⑧ 里見氏と同盟していた上杉謙信は里見氏救援の為永禄9年（1566）3月小田原北条方の原胤貞の守る臼井城を囲み、同年3月20日の長尾景長の書状には同城の落城間近いである事が読み取れる。他方同25日・28日の北条氏政や北条氏と結ぶ古河公方足利義氏の書状等よると上杉謙信方は数千人の手負い・死者を出して敗北したと見える【謙信は3月25日撤退。軍師 臼井浄三&北条方の松田康郷等の智謀・指揮により】

★謙信は北条氏政に備え、大和田の取手に4000人の兵を留め、主力を生谷城に本陣をおき、前線を一夜城に配置。謙信は本佐倉城の千葉胤富を牽制する為中間の鹿島川手前に2500人配置

★他方臼井側は臼井城に3500人、本佐倉城に2500人、師戸城に1000人配置（臼井城5砦別人数は不明。せいぜい1～200人程か？）

2) 近世 臼井村；

- ① 江戸期～明治22年の村名。下総国印旛郡のうち。はじめ臼井藩領。中世末より臼井城の城下町の色彩が濃かった。慶長9年(1604)藩主酒井家次（母親が家康の叔母碓井姫）の高崎への転封(天正18年～37,000石)により幕府領となる
- ② 慶長13年（1608）からは旗本7氏の知行地に。貞享3年（1686）には、台町、八幡山、宿と田町に分けられる。佐倉藩、旗本川口氏、松喜氏、津氏、上田氏、弓気田氏の知行地。他に宗徳寺領、円応寺領があり、総石高1448石。元禄14年（1701）から佐倉藩領に。同時に臼井台町と臼井田町を分村した⇒臼井村、臼井台町、臼井田町の3村に。郷帳類では江戸期を通じて臼井村は、臼井台町に含まれて記載。臼井村の村高は「元禄郷村」1096石余、「天保郷帳」「旧高旧領」共に1170石余。「旧高旧領」では宗徳寺領10石と記載。天明4年（1784）明細帳では臼井村のみで反別66町9反余、人数448、馬26
- ③ 臼井宿は佐倉城近隣宿駅として繁盛。同宿の天保9年(1838)の定助郷は19ヶ村、ほかに大助郷は66ヶ村。特に文政年間(1818～1829)以降は成田詣りが多くなり、茶店・旅籠屋・馬方・駕籠かき人足等で宿場町として活気があった。鷹匠の出身者が多く、鷹匠衆の宿泊地・拠点でもあった
- ④ 明治6年(1873)千葉県に属す。明治4年(1871)戸口194, 596人。職業は農業83、旅籠屋12、駄賃稼ぎ（坂での荷馬車後押し他）人力車3, 日雇い18、大工8, 駕籠かき2. 明治以降も交通の要地で明治8年いは陸運会社も開設

3) 近代 I 臼井町；

- ① 明治22年～昭和29年の印旛郡の自治体名。 臼井・臼井田・臼井台・江原・江原新田・角来の6ヶ町村と江原新田・角来村入会地、臼井村・臼井田町・臼井台町入会地が合併して臼井町に。旧町村名を継承した6大字を編成。役場は長源寺に置く。明治24年の戸数632、人口3677、馬111、船174、明治42年では戸数608、人口3421。大正15年京成電気軌道開通

4) 佐倉市の中の臼井

- ① 昭和29年3月31日佐倉町・臼井町・志津村・根郷村・弥富村・和田村が合併し佐倉市誕生。昭和30年に馬渡地区が旭村（現四街道市）から、飯重・吉見・畦田・羽鳥・生谷が四街道町（現四街道市）から編入

イ. 大字 臼井； 明治24年の戸数190、人口1081、馬22、船8。宿場で栄えた当地も明治27年開通した総武鉄道佐倉駅から離れていたため次第に衰退。大正5年京成電鉄臼井駅開業。昭和45年頃から宅地造成が相次ぎ人口が増加した。昭和54年世帯数959、人口3435

印旛沼南岸の丘陵地縁辺に位置する。地内に**臼井常安の氏神妙見社**や太田道灌の碑があり、湖畔を一望する地に洲崎砦跡がある。

5) **【近世】 臼井田町；**

- ① 江戸期～明治22年の町名。下総国印旛郡の内。江戸前期はもと臼井城下にあたる臼井村に属し、同村内台町分に相当する。はじめ臼井藩領、慶長9年(1604)からは幕府領、慶長13年(1608)から旗本の相給、元禄14年(1701)佐倉藩領となると共に臼井村から分村。村高は「元禄郷村」456石、「天保郷帳」「旧高旧領」共に474石余。その内20石は円応寺領。寛文2年(1662)の反別46町、家数74、人数388、馬34。安政4年「郷分村高帳」によれば小物成として夫役永1貫308文余・葭(あし)野銭永1貫・鏹(びた)1貫292門。他に漁業従事者は運上金を納入。印旛沼対岸の師戸村との間に渡し場あり、馬渡船・小船各1艘あり。佐倉藩にとっても交通運輸の要地になり、渡船新造補修では藩が半額負担。明治6年千葉県に所属。星神社、円応寺、長源寺、常楽寺、廃寺の松雲寺(禅宗)。明治22年臼井町の大字になる

6) **【近代】 臼井台；**はじめ臼井町。明治24年の戸数85、人口559、馬16、船2。昭和54年の世帯数707、人口2652

- ① 印旛沼南岸の丘陵地上に位置する。台地縁辺は中世城砦が取り巻いている。14世紀中頃から建設が始り文禄年間(1592～1595)に大規模改修が行われた。臼井本城は、台地の東端で印旛沼・臼井宿を眼下に望む要害で、城跡から寛政3年(1791)、文明10年(1790)、文禄4年(1595)の板碑が出土。台地の北側に戦国期の折ひずみ(敵方に見通しが悪くなる様に折れ曲がった土塁の意)が残る洲崎砦、中央部に仲台砦(戦国期以前に構築)、西南端に手繰砦、東南端に稲荷砦跡。これと小谷津を隔てた南の対岸に忍台城跡(15世紀の構築)、並んで永禄9年(1566)上杉謙信が侵入前進基地とした一夜城砦跡がある(本来は西方防備)。稲荷台には千手院の元の寺院である蓮華院跡から明応3年(1494)銘板碑が出土

7) **【近世】 臼井台町；**

- ① 江戸期～明治22年の町名。下総国印旛郡の内。江戸前期は、元臼井城下にあたる臼井村に属し、同村内台町分に相当する。はじめ臼井藩領、慶長9年から幕府領。慶長9年(1604)からは幕府領、慶長13年(1608)からは旗本川口氏領、元禄14年(1701)佐倉藩領となると共に臼井村から分村。村高は慶長7年(1602)の検地以後550石余。なお宗徳寺領10石領が含まれる。寛保2年(1742)の反別60町7反余、家数63、人数342、馬24。安政4年(857)「領分村高領」によれば、小物成として夫役永1貫460文・山銭鏹601文と記載。明治6年千葉県に所属。明治22年に臼井町の大字となる。八幡神社、宗徳寺、妙傳寺、淨行寺、妙覚寺、**宝蔵院、歡喜院、廃寺の満蔵院、慈眼寺、実相寺**

8) **【近代】 臼井台；**

- ① 明治22年～現在の大字。はじめ臼井町、昭和29年からは佐倉市の大字。明治24年の戸数110、人口557、馬18、船92。昭和54年の世帯数569、人口2074

9) **【近代】 江原；**

- ① 印旛沼南部、鹿島川下流左岸の台地上に位置する。江戸期は{城外江原}と公称され、寛文年間(1661～1673)佐倉城近在の角来村内の原野山林を開発。軽輩の役人・足軽の長屋を建設、藩の菜園を設置して出来た所である。佐倉道(国道296号)が東西に横断しており、その両端に木戸を設け、東端に矢場、西端に角場(小銃射的場)があった。天保14年(1843)無宿者の処刑に際し、菜園にて初めて死体解剖が行われた。明治4年戸数305、内士族35・卒族270。神社は淡島神社

10) **【近代】 江原町；**

① 明治9～22年の町名。印旛郡のうち。明治9年城外江原より成立。明治22年臼井町の大字となる

11) 【近代】 江原；

① 明治22年～現在の大字名。昭和29年から佐倉市の大字。明治24年の戸数110、人口648、船7。昭和54年の世帯数259・人口875

12) 【近世】 江原新田村；

① 印旛沼南部、鹿島川左岸の台地上に位置する。

② 江戸期～明治22年の村名。下総国印旛郡のうち。江原新田ともいう。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」241石。「天保郷帳」「旧高旧領」共に257石。当村は、佐倉城下の拡張に伴い、鐺木村の地内であった大手門広小路居住の農民の中で強制移転を命じられた者が開拓して定住したと謂われている。江戸後期になると、農民は佐倉城内の下肥汲取りをし、その肥料で野菜を栽培し近在に搬出した。安政4年（1857）「領分村高帳」によれば、村高のうち84石は寺崎村地内。小物成として夫役永323文・山錢鏹1貫247文・野錢永116文・茶園畑年貢代鏹（びた）2貫585文。明治6年千葉県に所属。明治8年の耕地面積田29町5反余・畑10町3反余。神社は麻賀多神社など。明治22年臼井町の大字になる

13) 【近代】 江原新田；

① 明治22年～現在の大字名。はじめ臼井町、昭和29年から佐倉市の大字。明治24年の戸数42、人口267、馬23、船16。昭和52年の一部が佐倉市印南となる。昭和54年世帯数112、人口418

14) 【近代】 江原台；

① 昭和56年～現在の佐倉市の町名



15) 【中世】 角来村；

① 印旛沼南部。鹿島川下流左岸の台地上に位置する。

② 鎌倉期に見える村名。下総国千葉北総のうち。建治3年（1277）10月13日付平幹時譲り状に「同（下総）国千葉北荘角来村」とあり、嫡子亀松丸に譲与されている。因みに平幹時は千葉氏一族

16) 【近世】 角来村；

① 江戸期～明治22年の村名。下総国印旛郡のうち。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」358石余、「天保郷帳」「旧高旧領」共に372石余。佐倉牧のうち柳沢牧野付村の一つ。村内を東西に佐倉道が横断。安政4年（1857）「領分村高帳」によれば、村高のうち、50石が諸役御免、100石が人馬御免で、小物成として夫役永900文余・林下苧錢鏹800文・山錢鏹367文・野錢永167文。明治6年千葉県に所属。八幡神社、黄檗宗大雄寺、円通寺・廃寺常泉院。明治22年臼井町の大字

17) 【近代】 角来；

① 明治22年～現在の大字。はじめ臼井町、昭和29年から佐倉市の大字。明治24年の戸数95・人口565・馬32・舟49、昭和54年世帯数270・人口1034

3. 上杉謙信と臼井城；

1) 上杉謙信が二の丸を突破し本丸のみ攻め落とせば臼井城は落城したのに、何故兵を纏めて春日山城に引き揚げたのか？ 諸説ありますが簡単に纏めてみましょう

①永禄7年(1564)1月下総に進出し国府台(市川)に布陣した里見義弘と北条氏康が衝突・激戦の結果里見軍は大敗(第2次国府台合戦)。この戦さ前里見方の正木氏が臼井城を攻略したが、国府台合戦時に原胤貞により臼井城を奪還した。この時点で上杉謙信に応援要請。北条氏は房総に攻勢をかけ里見方の本拠の久留里城に迫った。、勝浦城の正木氏は里見方から離反。里見方は危機に陥った。

②永禄8年末、上杉謙信は碓氷峠を越え関東に攻め入った。これにより里見方は苦境を脱した。上野(群馬)で年を越し、常陸小田城(つくば市)、佐野、館林を経て、原氏の配下高城氏の小金城(松戸市)を落としながら、本土寺にお参りし船橋に進出。兵糧等調達し、船橋大神宮にお参り、後の成田街道(下総道)を北上し、大和田を通過して永禄9年(1566)3月に臼井に到達。謙信15000騎、関東勢2510騎。

③里見・止不・土気の酒开氏を王刀とした臼井城攻め。形勢不利の為上杉謙信に応援を頼んだのが実態。臼井城2500騎、本佐倉城1500騎、師戸城1000騎、岩戸城500騎に対し謙信勢は総勢17510騎の陣容。生谷砦を拠点に一

(王子台砦)を前線基地にし、臼井城攻略にかかった。これだけの

兵糧を持ち込み、寝泊り等どこでどうしたのでしょうか？それよ

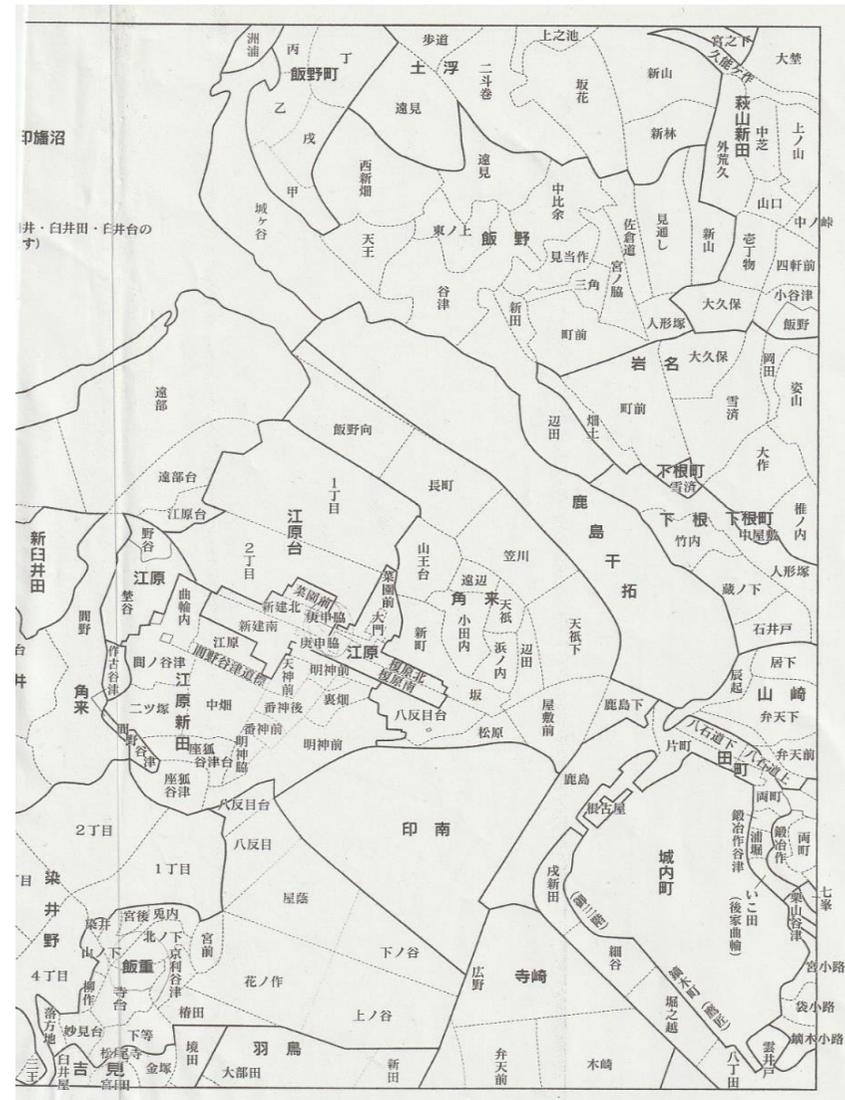
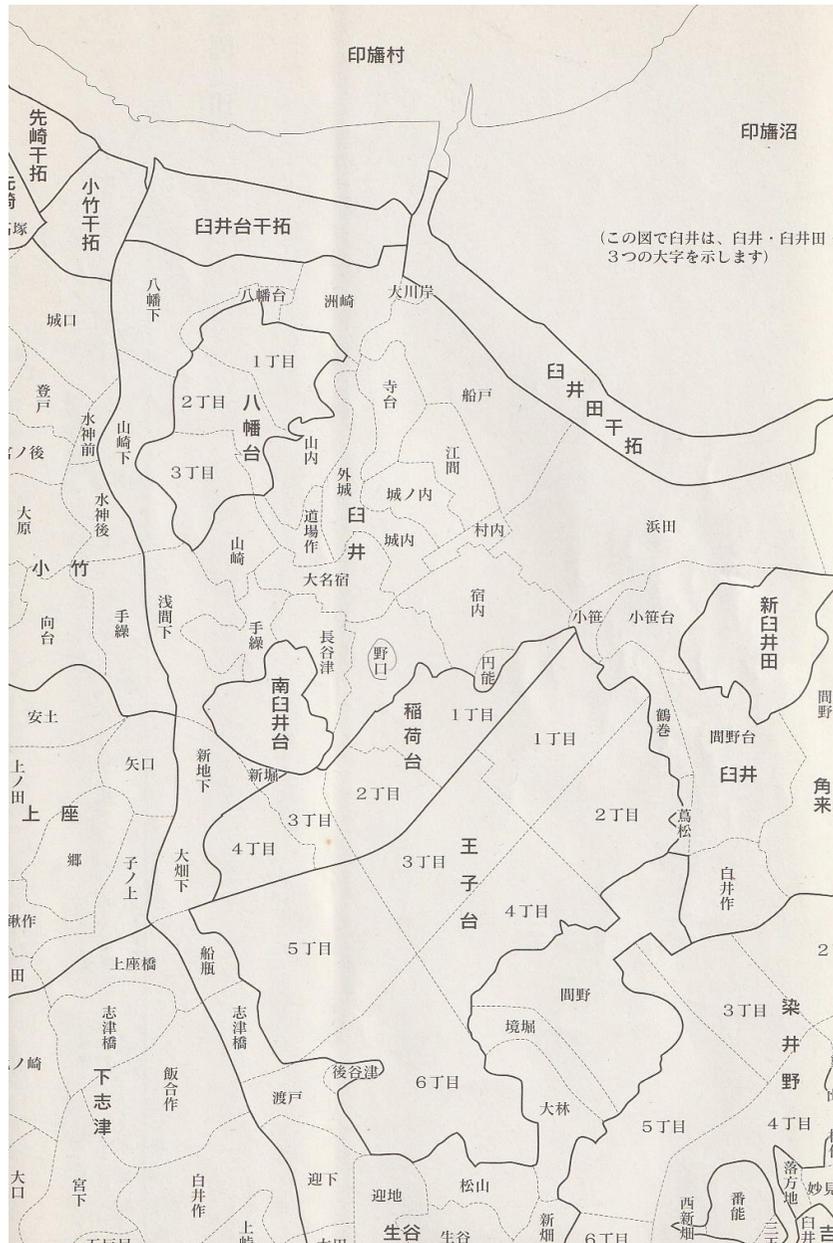
④永禄3年3月23日臼井城に攻めかかったが、24日には上杉謙信方は約5千人程の死傷者が出て敗戦・撤退。I郭(本丸)の手前迄攻め入ったの

で、何故上杉謙信が、死傷者5千人程を出したが、本丸手前迄攻め入っていたのに撤退したのでしょうか？諸説あります。

1. 春の農作業(田植え)を控え、これ以上兵隊(主に農民)として使えないと判断
2. 臼井城の城兵も少なからず無くなっているが、城兵の士気が未だ高く
3. 上杉謙信の戦は応援を要請され出陣するのが多く、士気がやや低い且つ、北条義氏の応援が予想され、その数が多いという情報が入っていた事
4. 上杉謙信は戦に勝っても領土欲が弱く、配下に管理を委ね、寝返されたりする事頻繁。その為支配領域が安定していない
5. 関東に長居をすると織田信長、徳川家康、伊達正宗等新興大名等との戦の心配と自分より前に京都の室町幕府と天皇・上皇に結び付かれる
6. 京都の室町幕府・将軍の弱体化と天皇・上皇との争いもあり、謙信自身も天皇・将軍より招請を受け早く上京する様要請を受けていた為その準備が必要等々あります。1番が正解か？
しかし年末に関東侵攻すれば当然長期間帰城出来ない事分かり切っていたはず??

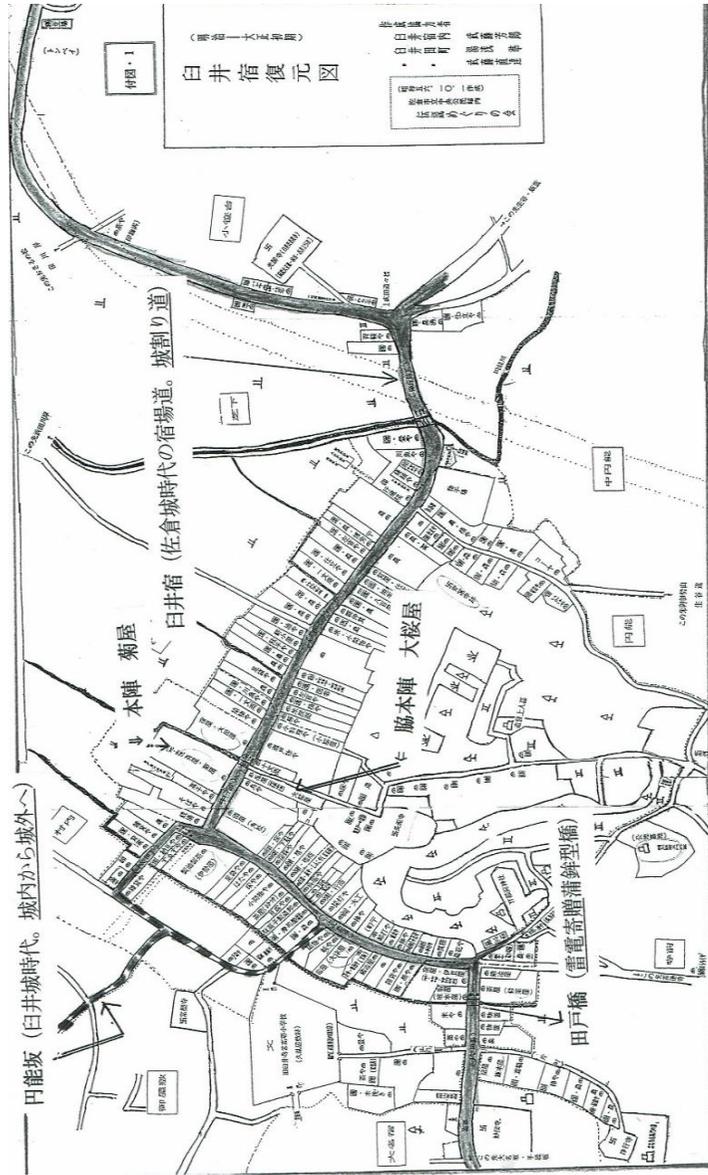


4. 小字マップ；

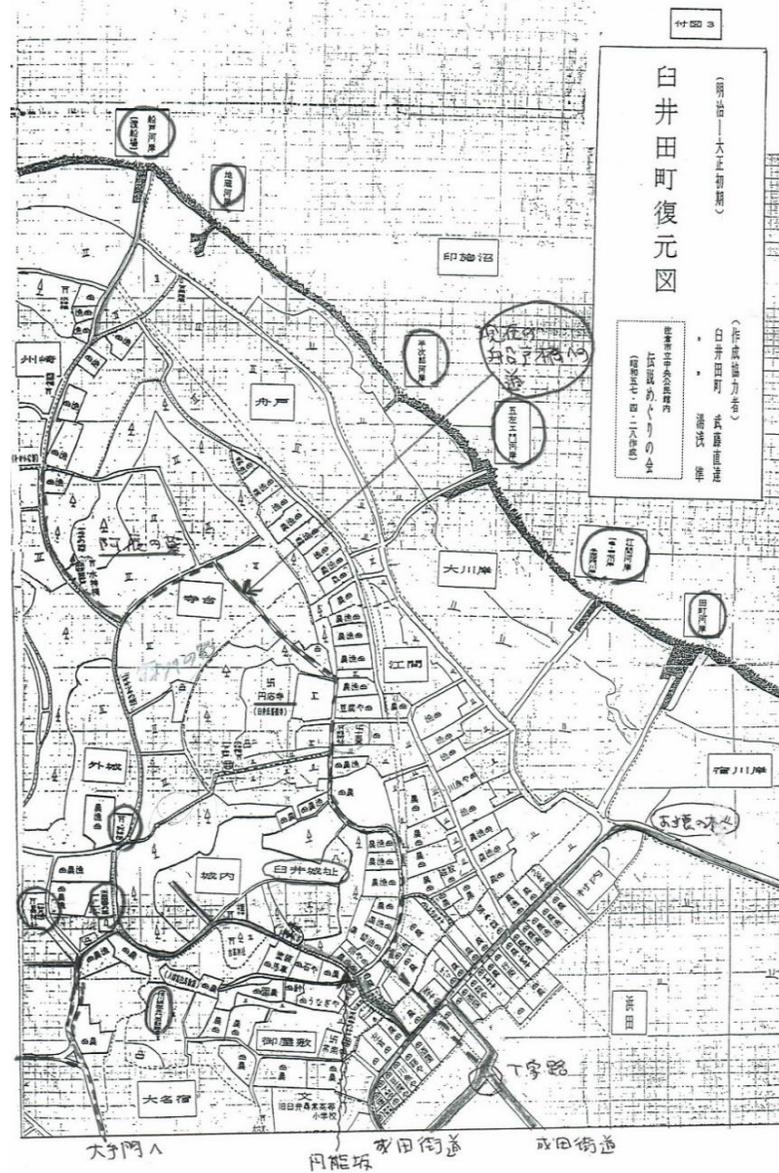


小字から見ても、白井、白井田、白井台更に角来、江原、江原台、江原新田等も入り組んでいたり、中には飛地もあります。何故でしょうか??

5. . 白井宿図面等；



白井宿図



白井田町図

6. 原胤貞、雷電、おはんと謙信の白井城攻め等；





白井城藩主 原胤貞



雷電為右衛門（まわしの稲妻模様が特徴）

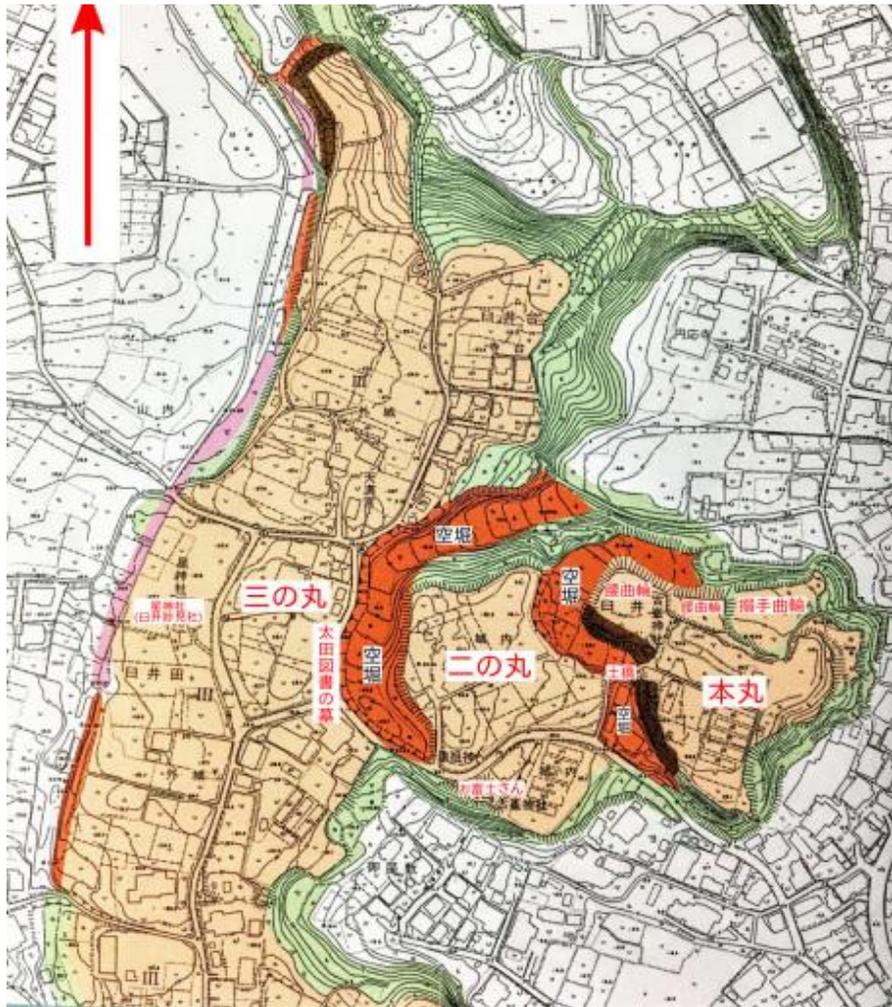


おはんと甘酒茶屋 天狗の様子

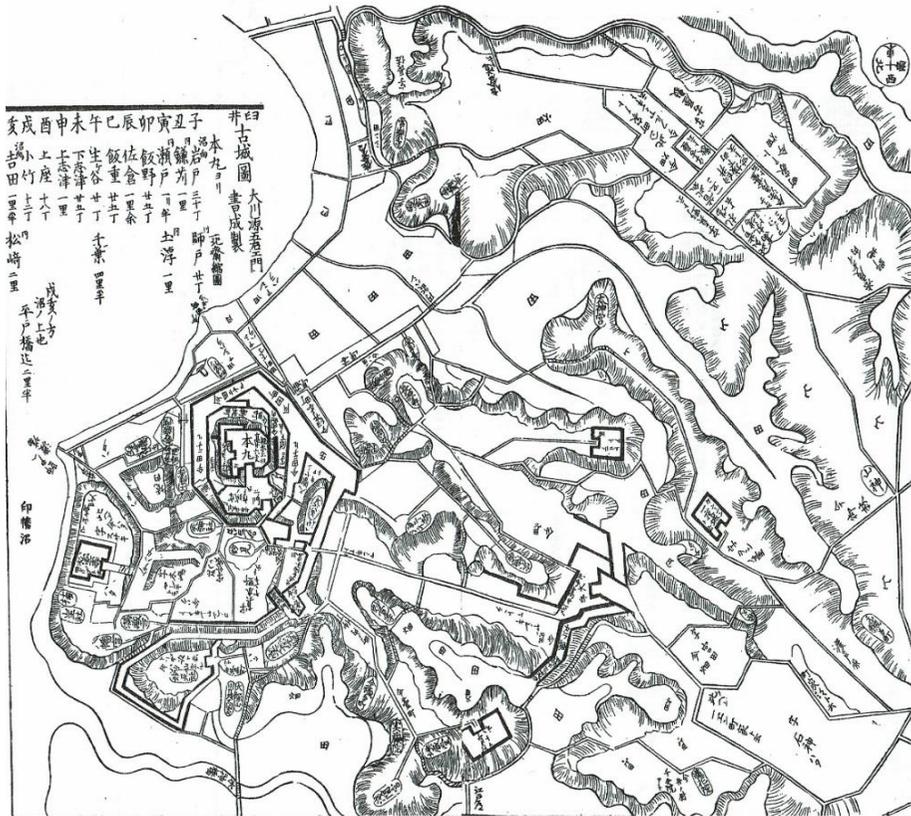


7. 白井城；





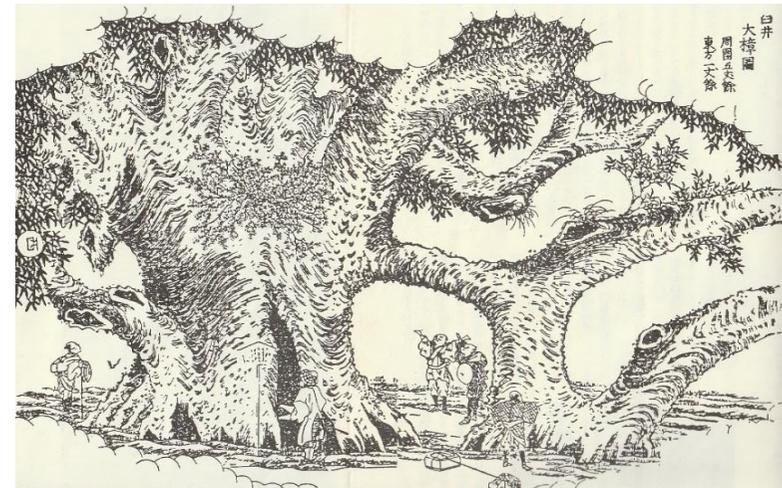
8. 臼井城と八幡神社・山王社の大楠；



※臼井城は、砦を含めると意外と大きな城である事が分かります。臼井城自信も台地をうまく利用された城で、一時は本佐倉城から千葉一族の原氏が臼井城を治めました。但し石垣があったか無かったかは意見が分かれる所です。千葉県北部は大きな石が無くローム層の地層です。利根川図誌では立派な本丸や石垣が描かれていますが？城に関する古資料が更に見つかるの良いのですが。B抜け屋敷付近、城下町付近の建物や様子を知る資料が欲しいです。更に発掘調査をしてでも調査して欲しいものです



臼井山王社の大楠



臼井八幡神社の大楠

※臼井八幡社と山王社の大楠とも街道を歩く旅人には有名ですが、特に山王社の大楠の木は街道からよく見えたそうですが現在は社を含め何も残っていません。州崎砦(松雲寺)の横側付近にあったようです

9. 白井宿と白井城と白井八景；

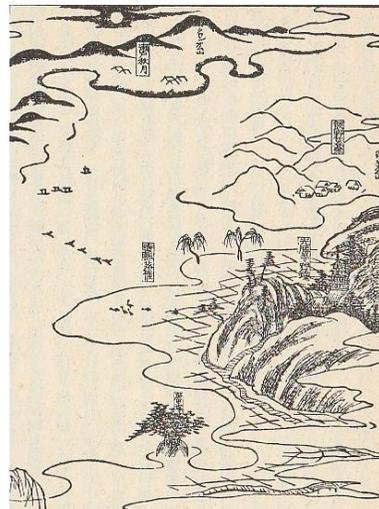
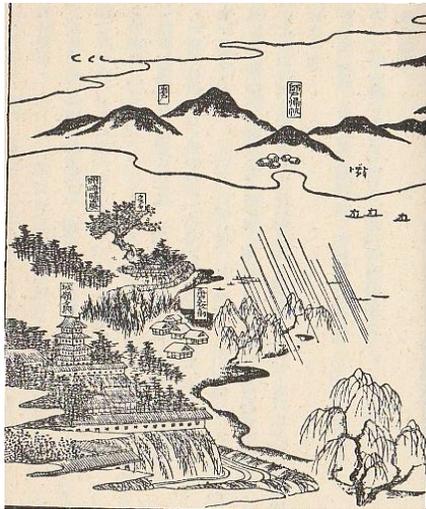


白井宿



白井宿と5砦

※ 5砦以外に王子台砦がありました。この砦は、上杉謙信による白井城城攻めの際、生谷城を拠点とした謙信は直ちに王子台砦を攻め落とし、約100m先に最前線と一夜城として称し城攻めの最前線基地としました。現在は住宅地整備で平地となり当時の砦跡の地形は分かりません。白井城、5砦と王子台砦(一夜城)との位置関係を読み取って下さい

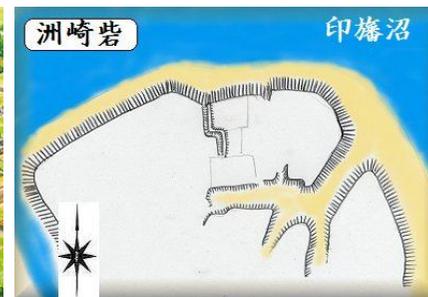
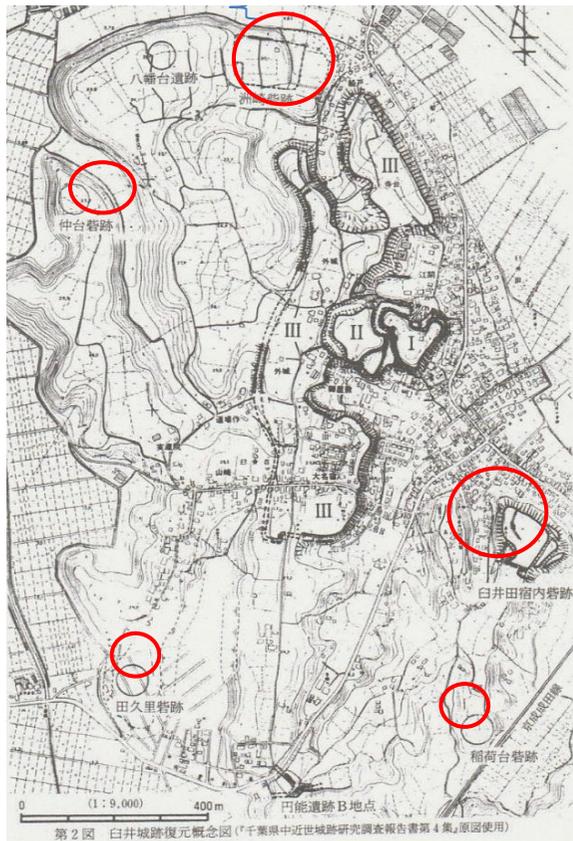


白井八景図(利根川図誌より)

白井久胤(～展生2年；574 白井氏最後の城主。台地下の久胤屋敷は、後見人の小弓城主 原胤貞に実権を奪われた久胤幽閉場所)の孫の秀胤(号 信齋)と円応寺24第住職玄海和尚とで、印旛沼の美しい景色を中国 北宋瀟(北洋)に似せて八景を読みました。舟戸夜雨、遠部落雁、飯野暮雪、師戸帰帆、瀬戸秋月、城嶺夕照、光勝晚鐘、洲崎晴嵐。信齋と玄海和尚の墓石は円応寺の本堂裏にあります。本堂横には岩戸五郎(師戸城主)と白井一族の供養塔があります

10. 白井城と五砦；





5 砦と白井城との位置関係



1 1. 散策マップ



探索コース全図



No 3



No 4



No 1



Mo 2



No 5



No 6

1 2. 臼井城に関する書籍です。購入されたり図書館で借りてください

- ① 「最低の軍師」は、謙信が攻めてきた折の臼井城の城内の状況と戦さ状況を小説化文庫版なので是非お手元に1~2冊置いてください
- ② 「臼井城物語」は臼井城の歴史を書いたものです。出版元廃業。図書館で借りてください



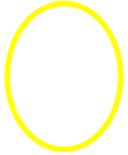
赤松宗旦「利根川図誌」の中の
臼井八景の一部拡大(岩波文庫)
臼井城です。

立派な石垣があり四層の城が描かれています。室町時代末期に臼井に立派な城があった??本当なら重文??

- ③ その他臼井城に関する資料は少ないので正確な所が不明です。城内の構造については、もう少し発掘調査があっても？
逆にそこに新しい発見を見出すチャンスがあり面白いです

地区スポット説明

1	2	3	4
白井駅	坂(仮称 ^{イリダイザカ} 稲荷台坂)	坂(仮称; ^{イリトリツカ} 稲荷砦坂)	稲荷台砦跡1(稲荷台公園)
			
<p>大正15年(1926)12月「白井」の駅名で、現在の驛より約580m北東に存在しました。丁度296号線の踏切がある場所を改札口とし、ホームはその先になります。昭和6年(1931)に駅名が「京成白井」に改称。昭和53年(1978)現在地に移転しました。王子台、更には染井野等の住宅地整備計画に基づき駅舎等が現在地に移転しました</p> 	<p>白井駅北口から稲荷台住宅地をまっすぐ台地を上る坂です。最後はT字路の突き当りで、右折すると稲荷台公園の上部で突き当たり左折して行きます。ここまで殆どが上り坂になります。約7度、380m程</p> 	<p>稲荷台公園に向かう上り坂です。住宅整備の関係もあり、元の地形が少し分かりずらくなっていますが、恐らく舌状の地形上に現在は稲荷台公園になっています。途中公園手前を右側に上り階段があります。約170m 8度程</p> 	<p>公園内の土地整備計画完成の碑文の中に簡単に中世の白井城の一つである稲荷台砦の事を記しています</p> 
5	6	7	8



稲荷台砦跡2(稲荷台公園)



坂(仮称 宿^{シク}内城址)



宿内城址1



宿内城址2



土塁

曲輪付近から

白井城を背にし、近くに宿内砦があります。勿論白井城の背面には大きく印旛沼(干拓前の旧印旛沼)が大きく広がっています。上杉謙信が白井城に襲い掛かった時には、一夜城を最前線にし、生谷城を本拠地とし両軍が相対していました。稲荷台砦は本当に最前線でした。現在もこの公園より王子台、生谷方面が何とか一望出来ます

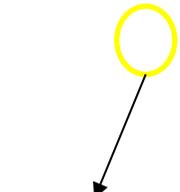
宿内公園(砦跡)に上る道は複数あります。その一つで、何か趣きを感じられ歴史に触れる道です。白井駅北口を直進し、一番最初の幹道を右折・直進し、2~300m程行くと左折し直進すると台地下から上部への細い道があります。曲輪下を通り台地上の宿内公園の入口に出ます。何故か歴史を感じる道です。謙信が攻めて来た時、稲荷砦と大型砦のこの砦は真っ先に戦時に入りました。そんな折砦内に籠った兵士への食料補給道ではなかったのでしょうか？

白井城を守るのは、本佐倉城、岩戸城、師戸城と5つの砦です。その砦の中で一番大きなものはこの宿内砦です。地形からみるとU字型の縦側に白井城と宿内砦が。間を現在は成田街道が貫通。明治22年以前は宗徳寺手前で繋がっていました。曲輪が数ヶ所、土塁もしっかりと残っています。ゆずりはは常緑樹ですが、クスノキ同様古い葉は若葉に譲り落葉します。その為ゆずりはと呼ばれています



ゆずりはの群落です。

曲輪跡

9	10	11	12
宿内城址3	宿内城址4	宿内砦からの印旛沼遠景1	宿内砦からの印旛沼遠景2
 <p data-bbox="369 678 504 710">腰曲輪跡</p>	 <p data-bbox="840 678 952 710">土塁跡</p>		
 <p data-bbox="212 1109 392 1141">南限のイヌビロ</p> <p data-bbox="459 1109 638 1141">ユズリハの群生</p>	 <p data-bbox="683 1109 1108 1141">腰曲輪から白井・船戸道への下り階段</p>	<p data-bbox="1120 710 1568 1021">宿内砦は当然白井城、師戸城等を常に見守っていますが、そこには印旛沼での動向監視があります。白井城から北の動向を見守っています。南、南西、南東への見守りを同っているのでしょうか？北条氏との信頼関係があり安心？里見氏（東金の酒井氏）、北の上杉謙信、西の武田信玄等の動向に関心があったのでしょうか？千葉氏本家は没落し、本佐倉城、白井城の原氏に移っていきます。観光資源としてもっとアピールすべきなのでしょう！印旛沼遠景場所としても最高です</p>	
	 <p data-bbox="996 1244 1120 1308">道誉上人の 下り階段</p>		

13

道譽上人墓



14

坂(仮称)



15

南向



16

坂(仮称) ライデン ザカ 雷電坂



永正12年(1515)~天正2年(1574)和泉国(大阪府)生れ。増上寺、成田山新勝寺で修行・天文20年千葉小弓城主原胤榮に招かれて小弓に大巖寺を開きました。その後増上寺管首に。永禄6年(1570)小弓に帰住。元龜元年(1570)原胤榮が白井城主になると道譽上人を白井に招き大源寺(後の長源寺)を開きました。斜めに植



幹の大きな空洞の中に別の木の幹が

道譽上人や長嶋家等長源寺の墓地を下りて来ると、左は北・南向き道祖神社方面への上り坂。右は長源寺に抜ける下り坂です。約130m、8度程です。かつては宿内砦付近に長源寺がありましたが、安永年間(1772~1781)火災により現在地へ多転しました。即ち宿内砦での謙信と戦時期(1566)と長源寺が創建された貞元元年(1570)とはほぼ重なります。些が、その後には?



社が南を向いているので南向きの道祖神が祀られています。手前右には廃寺の光明寺(真言宗。実藏院末寺)にあつたと思われる1665年造の釈迦如来と右側は変な顔の1672年造の観音菩薩像です。



南向き道祖神の前から成田街道の新坂交差点迄の坂です。170m程、7度ぐらいです。坂途中に2019年11月頃の大雨時に土砂崩れが起き、その土砂を大きな土嚢が再発を防止しております。その土嚢の先を右に坂道がある寺。光明寺があつた平地に出ます。現在地にはその一角に墓草



17

稲荷神社(雷電公園)



雷電が寄贈した階段を上ると三連の社があり、真中は稲荷神社、左側ほ三峯&古峯神社、右側は子安神社です。社の右側には大きなエノキの大木があり、その周りにも石社の稲荷神社が並んでいます。この社の後ろ側は明治時代初期は公園として整備され印旛沼展望台がありました。国鉄総武線が開通し臼井近辺の客寄せとして毎月2回相撲大会が実施されました。戦後は競輪場が作られ競輪が行われていました。この公園自身も多くの歴史がありました。是非とも印旛沼展望台として再開して欲しいものです



18

旧印旛沼展望台



19

稲荷神社付近からの
旧臼井宿遠景



20

旧成田街道と
(仮称:新坂)



雷電坂を下り、仮称新坂交差点に出る左側にはかつてはお茶屋がありました。勿論国道を右に行くと雷電夫人おはん(八重)の生家甘酒茶屋「天狗」があります。さて成田街道はこの交差点を上っていきますが、明治7年に当時元佐倉城跡に置かれた日本で最初の歩兵第2連隊が軍馬、大砲等装備を運ぶ時に新坂等を上るには不適の為、明治22年に宗徳寺前を廻る新道が開通しました。同じ事が、手繰川を渡り左折して上座本村経路は、今度は道幅が狭いこともあり、現線坂・手繰不動尊(廃寺性輪寺)の新成田街道が開通したのを思い出します



21

坂(仮)



22

成田街道付近遠景



23

本八幡神



24

仮移



スーパータイヨーの手前横から右折して行くと南臼井台の台地上に繋がる坂になります。小字より野口坂としました。意外と急な坂で、薬180m、8度程です。この坂からの眺めは良いものです



現在の八幡神社が完成するまでの間、ご神体を仮安置した場所です。八幡神社の地面と同じ高さという事でこの場所が選ばれました。八幡社の春の例祭には、下志津、上座、畦田等の八幡神社講中が臼井駅から染井野に通ずる楠道を通り、こも本八幡神社をお参りしてから八幡神社に向かうのが習わしだったそうです(八幡神社講)



小字から命名。ハマトク坂を上り切った所に東西に幅広の急な坂が台地下に一気に下っています。上部からは手繰坂一帯が良く見渡せます。13度程、190m程



25

26

27

28

長谷津坂よりの
上座方面遠景



田久里砦跡



坂(仮称)



地藏



永久2年(1114)白井常康が築いたと謂われる田久里砦跡から手繰り物で110mX70mの単郭構造。手繰砦ともいわれる。幅約30m、11mの長方形の砦跡です。現在は長谷津児童公園になっています。かつては舌状態の台地だったのでしよう



田久里砦跡から手繰り物で110mX70mの単郭構造。手繰砦ともいわれる。幅約30m、11mの長方形の砦跡です。現在は長谷津児童公園になっています。かつては舌状態の台地だったのでしよう



29

タグリサカ
手繰坂 (別)

30

旧街道



31

道標



32

ウスイ
白井

手繰橋から旧成田街道に入ると直ぐに急な上り坂があります。この坂は舗装がされていないと粘土質の坂で、上り下りが大変だったと思われます。成田街道で言えば、この坂と新坂、市役所手前の海隣寺坂(別名おっぺし坂)、江戸坂(別名八丁坂。白井の刑場手前の坂)、仮称・上座坂(手繰橋から上座に抜ける坂)が五大急坂です。約80m、12度程

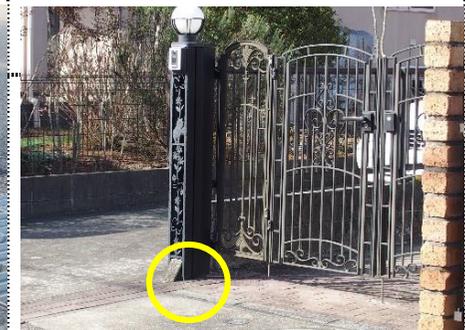


ゴミ箱の横にこの石が道標である事気付く人も少ない事でしょう。この道を右折し下ると雷電の碑で有名な妙覚寺(別名 薬師様)への道標です。半分欠損していますが「房総の道標」より纏めると次のように刻字されているようです。

正面 (薬)師仏 北 是先凡三丁
 面 ○○(郎右エ門)
 面 (明治八)年四月吉日



佐倉市内には、白井の石敢當の他に、薬師坂近くの内田氏宅、今は無くなりましたが栄町観光協会先の右側の個人宅、並木町の高岡稲荷神社そして?(思い出せない!後一つ?)しかありません。白井(ご家族にお聞きしましたら沖縄土産だそうです)、観光協会の先どころの石敢當は沖縄土産か?他は従来からあったそうです。沖縄、鹿児島出身者でしょうか?



33



34

実蔵院1

35



36



大名宿の有名な道標です。
 正面には 右 成田ミち
 右面には 左 江戸みち
 左面には 西 さくば道
 背面には 文化3丙寅年正月28日
 新吉原仲之田」宿太田屋
 伊勢屋半重良

注目点は道の表示方法、「町を2分割し田と」にしたこと。
 の知識・お遊びは



剥落が非常に進んでいます。正面の如意輪観音像は剥落しました。更に造立年の文久2戊も。

右面には 右 かくらい
 田町
 左面には 左 おたけ
 先さ起



本堂まえの西行法師の旅姿像。少し剥落が進みはじめました。山門入れれば左側には明倫中学校の校歌碑等



37

名関脇稲川



38

アオスゲ
青菅付近の遠景



39

坂(仮称)



40

仲台砦跡

かつては、南向道祖神前の墓地内にありましたが現在は失
つされました。名(高
位)稲川政右衛門
鷲尾家と合葬です



臼井台、実蔵院の裏から閉店したイタリアレス
トラン山風花(さんふうか)の前の台地から八
幡台3丁目の住宅街に通ずる坂です。小字
から坂名を付けました。120m程、10度程度で
す



土地が少し白秋になっているのが分かります

41

坂（仮称



42

社（



43

八幡神社2(神輿蔵他)



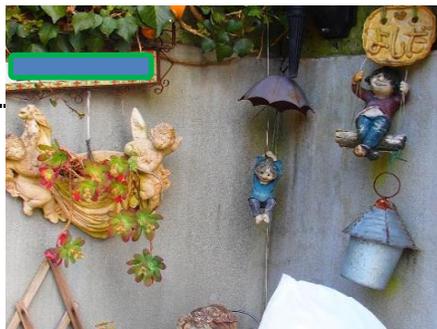
44

八幡神社3(



仲台砦から八幡神社の入口迄の上り坂。270m程、7度程。途中のお宅に凝った飾りがされた物がぶら下げられたしてました

見慣れた本殿ですが、横から見ると少し威厳を感じます。祭神は菅田別命(ほんだわけのみこと)です。白井興胤が暦應元年(1338)に印旛、葛飾2郡114ヶ村の総鎮守として創建したと伝えられています。興胤が宇佐八幡に戦勝を祈願し、足利尊氏に仕えていた折筑前国多々良浜の戦いで菊地武時との戦に功を得て尊氏から白井の本領を得た城主に復帰しました。その事もあり、宇佐八幡宮を白井に勧請しました。因みに拝殿横の大楠は山王社の大楠とは別木です



疱瘡神(ほうそうしん)

45

山王社跡と^{ショウウンジ}廃寺松雲寺



46

洲崎砦跡



47

坂(仮称)



48

の稲荷神社と子安神社

①現在の八幡神社の境内にある大楠の枯木は、いわゆる山王神社の楠ではありません。成田街道を往来する旅人が見た大楠はこの山王神社にあった楠ですが、現在はその跡形ありません

②松雲寺の由緒は不明で、明治以前に廃寺。山号は洲崎山と言ひ臨済宗妙心寺派の寺院です。現在は畑に一角に墓地がありますが、よくもわれます



白井城の5砦の一つ。印旛沼と対峙し印旛沼の北側の岩戸、師戸城を抑えながら印旛沼の交通・物流動向等監視していました。150mX100mの単郭構造で土塁の一部が残っています。砦東側は昭和48年いぜんにより住宅整備で土砂採取され消滅。廃寺の松雲寺はこの砦跡にありました。現在畑の中の墓地がその名残りでしょう



八幡台から船戸へ下る坂の上部を右折して県道64号線への近道への坂です。字名から付けました。7度程、約125m程



49

円應寺(

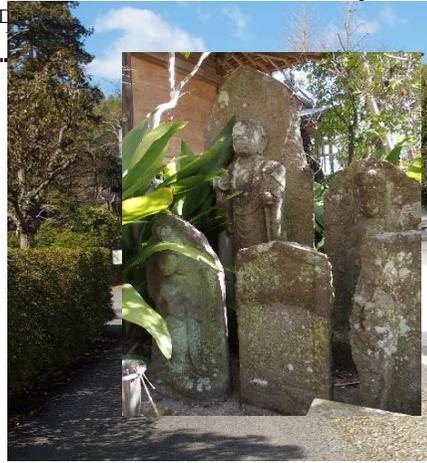


十王堂(閻魔堂)

白井の苔寺と謂われています。秩父巡拝塔、子安観音像には多くに短歌が刻まれています。大師堂、鐘撞堂に続き十王堂(閻魔堂)が並んでいます。足元にも苔が生えています。瑞湖山円応寺で、臨済宗妙心寺派(元は臨済宗建長寺派。天野自身は臨済宗大徳寺派信徒。どこが違うのかよく分かりません)本尊は釈迦尼仏。暦應3年(1338)元竹若丸が成長し、建寺で修行し、その後白井氏中高の祖と謂われる白井興種(おきたね)が創建、開山は鎌建長寺の仏真禅師。白井氏の菩提寺です。



50



51

円應寺(白井の苔寺)3



52

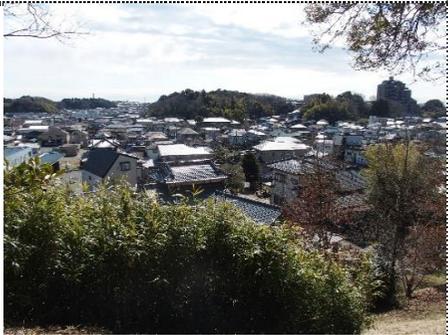
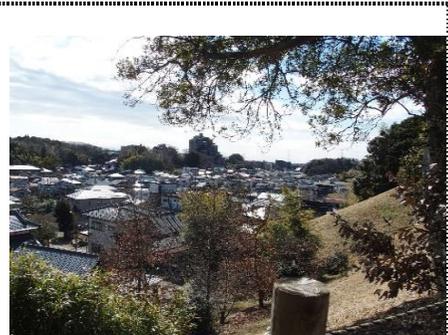
尚&白井秀胤(号信齋)の墓



玄海和尚の墓石

本寺24代住職の玄海和尚の墓石も並んでいます。この玄海和尚は白井秀胤(号信齋)と共に白井八景を作りました。元禄11年(1698)北宋の瀟湘八景(しょうしょう八景。湖南省長沙市付近)にならい、印旛沼の美しい景色の中から八景を景勝地としました。舟戸夜雨 遠部落雁 飯野暮雪 師戸帰帆 瀬戸秋月 城嶺夕照 光勝晩鐘 洲崎晴嵐の八景です。信齋の墓も本堂裏にあります。白井興胤の五輪塔お墓も並んでいます



53	54	55	56
白井城1	白井城2	印旛沼・白井宿遠景1	印旛沼・白井宿遠景2
<p data-bbox="389 675 472 703">本丸跡</p> 			
<p data-bbox="203 1038 331 1067">井城を奪還</p>	<p data-bbox="658 703 1113 1038"> ★永禄4年(1561) 安房里見氏の一族大多喜城主 正木大膳に攻められ落城、永禄7年千葉氏家老職原胤貞により奪還される ★永禄9年(1566) に上杉謙信は里見義堯、義弘等の要請で白井城を攻めたが、攻め切れず越後に戻る ★天正18年(1590) 井豊臣秀吉の小田原攻めで後北条滅亡に伴い原氏も滅亡し、天正19年(1591) 酒井家次が3万石で白井城に入る。文禄2年(1593) 出火焼失(再建せず) ★慶長9年(1604) (高崎) 転封により </p>		
 <p data-bbox="322 1374 539 1402">本丸から円応寺方面</p>			

57

印旛沼・臼井宿遠景3



58

印旛沼・臼井宿遠景4



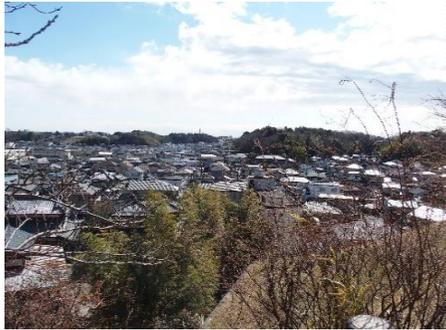
59

坂(仮称)



60

北



臼井城二の丸の入口より台地下に下る坂道。小字名から名付ました。140m程。約7度。坂の右側のお宅の表札「狛倉」を何と読みますか？正解は「ししくら」です

南向き道祖神に対し北向き道祖神しんです



61

掛番1

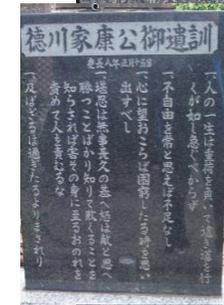
掛番2

掛番3

白井駅 北口

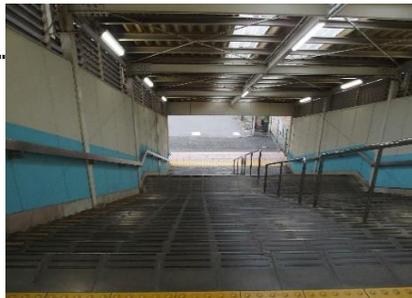
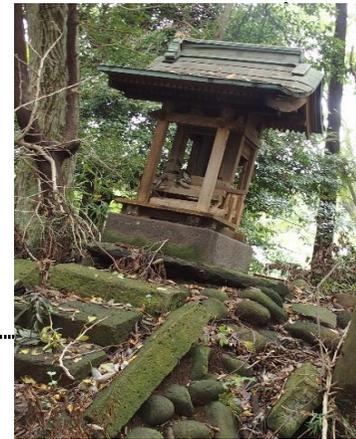
紺屋ヨシダの工場跡と織機歯車

也周辺等



権現水と五撰家の説明碑
五撰家の一つのお墓

いつまで長嶋茂雄さんなのでしょうか？上杉謙信に勝った白井城、白井宿、印旛沼等キヤッチコピーは一杯あります



白井城土塁の上の祠(現在撤去)

火災を知らせた八咫鳥供養塔